



東春近保育園 令和7年11月

地域の皆様、日頃より保育園の活動に、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。今年も猛暑でしたね。暑い暑いと思っていたら、急に冷え込んできた今日この頃。今年の冬はどうなるのでしょうか。

保育園の子ども達と言えば、毎日、自分の興味あることを楽しんでいます。広い園庭で、水・泥・砂・虫花・葉っぱ等を使って、様々な遊びが展開されています。



## 学びの芽は遊びから



ノーベル賞を受賞された坂口志文さんのインタビューで、『自分の好きなことを、とことん関わっていくと、どんどん面白くなっていく。座右の銘といわれても、難しい四字熟語は思いつかないが、あげるとしたら「ひとつひとつ」自分の興味を大切にしてほしい』と話していたことが印象的でした。

子ども達の遊びを見ていると「実によく周りを見ている」と感じます。それは周りの物であったり、人であったり…。

そして、自分の発見を伝えようとして、言葉や、指差しや視線や、態度でなんとか伝えようとしています。その自分の発見が相手に伝わり、わかってもらえた瞬間の嬉しそうな顔。そのやりとりが、その子の興味となり、次の遊びへつながっていく。保育園の生活で、そういった「子どもの時間」を大切にしていきたいと考えています。



## 子どもの時間と大人時間の違いを感じた出来事

A君が「ハート作ってあげようか？」と、黄緑のハートを一つ作ってくれました！それを見ていたBちゃんが「私もハートつくれるんだ！」とオレンジのハートを作ってくれました。

A君は「もう一個作ってあげるね」と広告で作り、全部で私は4つのハートをもらいました！「朝から幸せだなあ」と話していると、

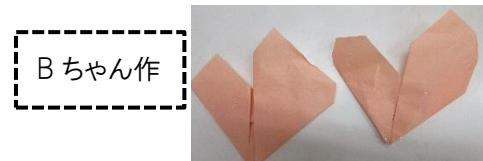
C君が「激辛お料理です～」と、きれいに盛り付けたままごとを並べてくれました。私は「おいしそう！」と食べる真似をすると、Bちゃんが

「いいこと思いついた！ちょっと園長先生、そのハート貸して！」  
すると、4つのハートが、みるみる間に「フライパン」に変身！！

「これで、熱くするとおいしいじゃん！」と。

料理人C君も楽しくなってきて「もっと、もっと焼いてください。おいしいですよ」と。

この楽しいやりとりは、時間にすれば5分位でしたが、子どもの発想や遊びの展開は実に豊かでした。大人の5分って何をしていたっけ…。大人はなぜか忙しい毎日。子どもの「見てみて」「聞いてきて」「もうちょっと遊んでいたいな」に答えられているのだろうか…。大人の都合を少し横に置いて、子ども時間を一緒に楽しみたいですね。



ハートのフライパン  
今、焼いているのは  
ハンバーグ  
熱々でおいしいよ



# 河童を釣ろう！！

ある日、サツマイモ堀りの後の芋のつるを、釣り竿に見立てた年長さん達。「これで魚を釣ろう」と、初めは魚釣りだったようです。保育園のフェンス越しのマンホールの下には流れの速い川が通っていることを知っています。保育園の内側から、釣り糸をたらします。エサは「さつまいも」「じゃがいも」（掘り残した小さな物）を、ガムテープでツルの先につけて釣り始めました！そのうちに「河童を釣ろう」ということに変わっていきました！



工夫した  
エサの芋



釣り竿になったサツマイモのつる



たいへん！！  
えさをかじられた！！  
カッパはほんとにいるんだ！！

事務室へ知らせにきてくれたD君

「河童を釣る？」という発想にびっくりしますが、いろいろ聞くと、子「釣ったら食べるんだよね」←えっ食べるの？ 子「ケンカしたい！」←かなり力が強いと思うけど…。子「字を教えたい」「遊びたい」「走りたい」etc どんどん出てくる思い。釣り方も、初めはマンホールの穴の入りそうなところに入っていたのが、「ちょっと、あっちの穴の方がいいと思う！もっと上方！もっとあっち！」と穴の場所を指定しはじめます。流れが早いのも幸いして「お！引いてる！引いてる！」と。本物の釣り師のような言動に思わず笑ってしまいます。

一方、同じサツマイモのつるを桜の木に巻き付け始めた年中さん。10月のハロウィンのイメージがある

みたいです。看板も作ったり、未満児さんも仲間に入って興味津々です。また、カレーパーティーの炭を使って土管に絵を描いた子もいました！大人はつるや炭を片付けるのですが、子どもにとってはそれも遊びの材料！！子ども達の発想や広がりは面白いなあと感心することばかり。私達大人も、子どもだったんですよね。自分の中の感性を呼び覚ましながら、ゆったり過ごしたいですね。



この通信が出る頃にはこの遊びも変化していると思いますが、こういった遊びややりとりを、子ども達の生活の中心として、心と体を育む時間を大切に保育をしています。

東春近保育園 72-5837